

2021年5月31日

## R&amp;I格付アウトLOOK——クレジットカード・信販

## 1. 決算状況と事業環境

クレジットカード・信販会社の2020年度決算は減収増益だった。カード各社では新型コロナウイルス感染拡大を受けてレジャーや外食を中心に取扱高が下押しされたほか、資金需要の低下により収益性の高いショッピングリボやキャッシングの残高が減少し、営業収益が落ち込んだ。信販各社のカード事業も伸び悩んだが、オートローンをはじめ主力の個品割賦事業は堅調で、家賃保証など決済関連事業の成長も続き、減収を軽微にとどめた。一方、営業費用は営業収益の減収幅を上回って減少した。対面チャネルを中心とした新規カード発行など収益連動費用の減少に加え、信用コストが低水準に抑制された。

コロナ前の水準には及ばないものの、足もとの消費動向は2020年度に比べると良好だ。断続的な緊急事態宣言のもとでも、新しい生活様式への順応が進み経済活動が正常化しつつある。コロナ下での現金離れもあってキャッシュレス化は着実に進んでおり、中期的なカード取扱高の成長見通しに変わりはない。ただ業種や決済形態によりコロナ影響に濃淡があるため、各社が強みを持つマーケットに応じて取扱高の回復度合いに差が付きそうだ。

## 2. 格付上の注目点

資金需要の先行きは依然として不透明で、キャッシング残高の回復には期待しづらい。金利収入をカバーするという観点から、リボ・分割や後払いの利用動向に注目している。2020年度は特別定額給付金の支給もあって利用が落ち込んだが、単に資金需要というよりはショッピングに紐づいていることもあり、今後の取扱高の増加につれて残高の反転が期待できる。各社のキャンペーン施策や与信枠のコントロール方針を確認していく。

コロナ下で対面チャネルでのカード募集や取扱高は減少しており、感染リスクの低い商品・サービスやチャネルで補っていけるかも注目される。Eコマースなど非対面市場での競争力はもちろん、対面においてもスマートフォンを含めた非接触決済への対応力の重要性が高まる。スマホアプリを中心とした顧客接点の再構築が進めば、利用明細のペーパーレス化をはじめとした一層の効率化にも寄与する可能性がある。

キャッシュレス決済の普及に向けた経済産業省の検討会において、加盟店手数料の一部に関して公開を視野に入れた議論が進んでいる。手数料率やキャッシュレス化の進展に与える影響を注視していく。

## 3. 個別企業の動向と信用力の方向性

ストックビジネスとしての安定性が高いうえ、現時点で債権の質にも大きな変化はない。カード・信販各社の信用力は底堅く推移するとみている。カード業界では、ジェーシービー（発行体格付=A+）はキャッシュレス決済の成長を取り込む商品・サービスが豊富で、格付の安定感が高い。クレディセゾン（証券コード=8253、A+）はカード事業に加え、リース・不動産などファイナンス関連事業への多角化が信用力へプラスに寄与している。ポケットカード（A-）は伊藤忠商事とファミリーマートと一体となった事業展開が加速するとみられ、協業の進捗を見守る。

信販業界は、個品割賦事業の安定感が高いものの収益性・成長性に課題がある。オリエントコーポレーション（8585、A-）はみずほフィナンシャルグループと連携したカード事業や決済保証事業の強化、ジャックス（8584、A-）は海外事業の早期立て直しに注目していく。

主任格付アナリスト：肝付 卓也

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp  
■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が発行する金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性（信用力）に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。